

鶴岡・田川 水稲直播情報

第 2 号

令和3年5月14日
庄内総合支庁農業技術普及課
(TEL 0235-64-2103)

これからのポイント

※播種盛期以降、気温はほぼ平年並みに経過しています。

イネの生育に合わせて、遅れずに水管理及び除草剤散布を行います。

※今後、気温が高まる予報で、土壌の異常還元(ワキ)による生育抑制が懸念されます。

こまめな水管理と、生育不足の時は追肥を行い、初期生育の確保に努めます。

1 鉄コーティング方式の水管理と除草剤散布

○播種同時または播種直後に初期除草剤を散布した場合、7日間止水した後、落水または間断灌水で出芽を促進させる(落水するは、圃場表面が乾かない程度)。

○出芽確認後は浅水管理を基本とし、イネ1葉期以降に、初中期除草剤を遅れずに散布する。

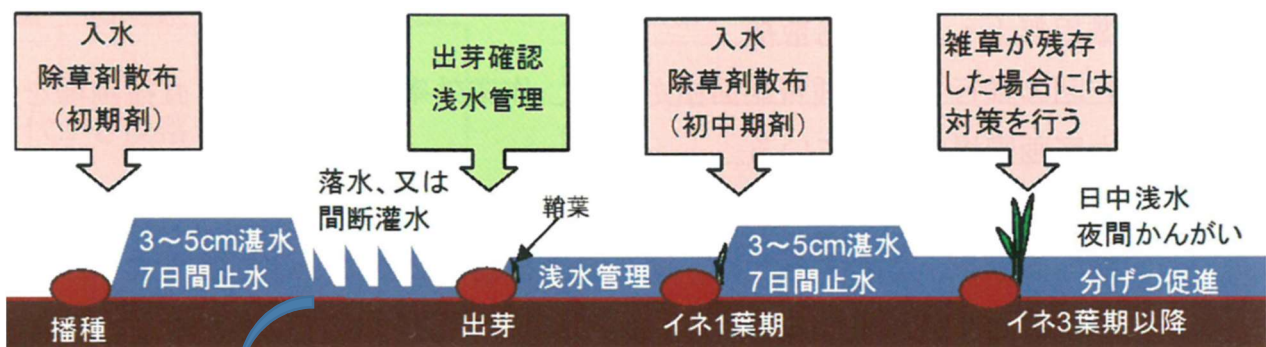


図1 播種以降の水管理・除草剤散布のイメージ

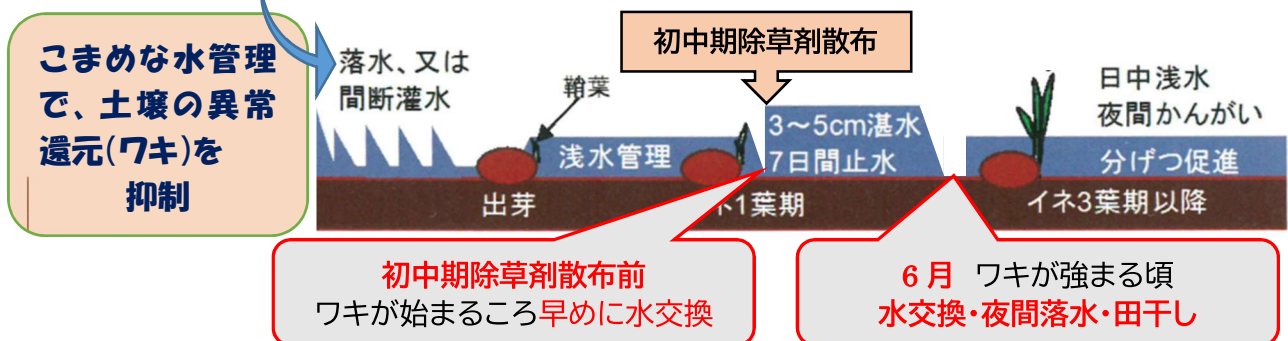


図2 ワキ対策を強調した水管理のイメージ

○初中期除草剤散布後の7日間の止水終了後は、浅水管理を基本とする。

ワキが強まる頃に、上記(図2)のイメージで水交換・夜間落水・2~3日程度の田干しを行う。

2 苗立ちの確認と追肥対応

○苗立ち本数を確認し、目標下限の茎数に達していない場合は追肥を行う。

追肥の目安と量: 3葉期 80本/m² 未満 ⇒ 窒素成分1.0kg/10a
(目標茎数 80~120本/m² ⇒ 追肥なし)

<春季農作業事故防止強化期間 4/10~6/10> **STOP! 農作業事故**